407. 生検用立体位置決装置使用による、精度の向上。

TECHNICAL EVALUATION OF STEREOTIX.

癌研附属病院

○伊藤 博昭 宮城 佳宏 佐藤 伸雄
Hiroaki.Itou. Yoshihiro.Miyagi. Nobuo.Sato.

目的

生検用立体位置決装置 (STEREOTIX) を使用して、圧迫板の窓を、より高精度域 (30×30mm) に絞り、Mamma graphy のみで発見された触知不能な病巣から、正確にそして、必要最少限の組織をとりだす。

方法

- 1、STEREOTIXの圧迫板にアクリル製で (30×30mm) の窓を付ける。
- 2、病巣部を、窓の中心に、くるようにして±15度でSTEREO撮影をし、その写真から病巣部の座標を計算し偏差値を表示させ穿刺部にあわせる。
- 3、穿刺針を刺し再度±15度でSTEREO撮影し位置を確認し、誤差を計算させる。

結果

x, y, z 軸の誤差を、それぞれプロットすると、下図のようになる。

穿刺針を、刺したときの誤差の標準偏差

(mean) ± (S, D)

X: 0.8 ± 0.7 mm

Y: 0.5 ± 1.5 mm

Z: 0.5 ± 2.6 mm となる。

圧迫板の窓を (30×30mm) にした利点

- 1、病巣部を装置自身の高精度域にセットできる。
- 2、穿刺部の乳房の盛り上がりを少なくし穿刺針の浮きあがりを極力おさえる。
- 3、圧迫できる面積がひろがるので小乳房でも圧迫固定ができる。

結論

この装置を使用しないときは、穿刺や切除を数回くりかえしたものが多かったが、この装置を使用した事により病巣部の組織を、より正確に一回の検査で摘出できた。

よって、この装置の有用性が証明できた。